あいのその　2024 年 1 月号

雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても倒れなかった
岩を土台としていたからである
マタイによる福音書７章２５節

愛の園保育園　042-325-1045

明けましておめでとうございます。
日頃より、愛の園保育園に対して温かいご支援をいただき感謝申し上げます。

昨年 2023 年は、関東大震災から 100 年目であり、かつ、法人が認可を受けてから 70 年目という、大きな節目を迎えた年でありました。

法人（雲柱社）の創立者賀川豊彦は、関東大震災が発生するといち早く駆けつけ、現在の墨田区にある本所地域を拠点に、（※）セツルメント事業を開始いたしました。

様々な事業が展開されましたが、そのなかで生まれた保育事業が、「光の園保育学校」となって現在までつながっています。

保育園でありながら保育学校と命名しているのは、まさにセツルメント的な運営が継続してきたからだと思います。

「本所での救済活動には多くのボランティアが集結し、目覚ましい働きが展開されていった。生きるのに精いっぱいで親の手が回らない子どもたちのために託児所がつくられた。生活に困っている人たちのための救護所、若者の学びのためには夜間中学校が開かれた。女性のための裁縫教室等々獅子奮迅の活動が展開されていったのである。」（雲柱社 70 年史 P18 から抜粋）

旧い事業計画を見ると戦後まもなく設立された法人のすべての保育園は、託児的な機能だけでなく、地域で生きる人々の生活向上を目的として建てられたことが、記録として残っています。焼け野原のなか、国や地域を再建していく人々の暮らしを守る必要が優先だったのでしょう。

100 年、70 年と大きな節目を迎えた法人が、現場においては保育園が、この先の 5 年、10 年をどのようなかたち、在り方で事業を継続していくことが、利用者にとってよりよいことなのか。

先ずは事業基本理念に立ち返り、地域の多様なニーズを掘り起こして考えてみなければなりません。

相愛互助に基づいた共生社会の実現のために、今年も職員全員の力を合わせて乗り越えていきたいと考えています。

社会福祉法人雲柱社　理事長　小礒　満